

ボランティア通信

～神奈川中学校 & 戸塚中学校 & 戸塚高校～

○目次○

【神奈川中学校】

英語英文学科 3年 桜井 素雅
人間科学科 3年 嶋 由加里
人間科学科 2年 堀内 友権

【戸塚中学校】

英語英文学科 3年 中谷 智美
英語英文学科 3年 馬場 成美
現代ビジネス学科 4年 守山 涼

【戸塚高校】

科目等履修生 埜 和徳
自治行政学科 2年 栗田 佳苗

学校ボランティアから学んだこと

英語英文学科 3年 桜井素雅

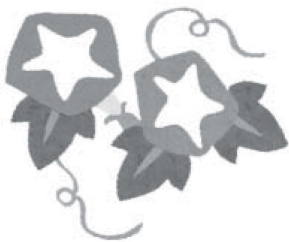
私は今年の3月から神奈川中学校でボランティアとして活動させていただいております。主に特別支援級8・9・10組で、生徒の学習の補助をしたり生徒と一緒に活動をしたりしています。活動日は週一回午前中のみという限られた時間ではありますが、毎回いろいろなことを学ばせていただいております。

私が、初めて教室に入ったとき、生徒たちをみた第一印象は「おとなしい」でした。授業開始のチャイムが鳴る前から自分の席に座り、どこか緊張した様子でした。すぐあとにわかったのですが、その日は期末試験でした。テストが終わったとたんに教室の雰囲気ががらっと変わり、多くの生徒は隣のプレイルームで遊び、騒ぎ出しました。先生はその様子を見て、「これがいつもの生徒たちの姿です」と教えてくださいました。8・9・10組の生徒はとても明るく、仲がよいです。何人かの生徒が、私に自己紹介をしてきてくれ、私はとてもうれしかったです。これが、私のボランティア初日の出来事です。

新年度が始まり、新1年生が3名入りました。そのうちの1人、R君は典型的な発達障がいのある行動がよく見られ、いつも先生に注意されるような生徒です。周りと行動がずれてしまったり、思ったことをすぐに口に出したりしてしまいます。私も注意をしようと思うのですが、どうやったらわかってくれるのか、怒つたらいけないのではないかなどと考えていると行動に移せないままになってしまっていました。ある日、屋外で花壇作りの作業をしている時、彼は周りの人が仕事をしているなか遊び始め、文句ばかり言い始めました。私は優しく注意をしましたが、聞いてくれませんでした。すると、支援級の先生が彼を呼び出し、厳しく叱りました。その内容を聞いていると、ただ彼を怒っているだけではなく、「周りのみんなの気持ちを考えてみよう」と言い、彼も納得した様子でした。私は、注意するときは相手と向き合って話すことや仲間を思いやることを伝えてあげることが大切なのだと感じました。

最近、生徒の成長した部分も多く見られるようになりました。朝の会を始めるときに、姿勢が悪く、おしゃべりが止まらない生徒がいました。以前であれば、そこで先生が注意していました。しかし、その時は3年生のM君が自ら、「○○君、姿勢悪いよ。静かにしよう。」と声掛けをしました。私はあとでM君に「よい声掛けだったよ」と言いました。そしたら彼は少し照れくさそうにいました。こうして良い所をどんどん見えて褒めてあげたいと思いました。

今後もボランティアをさせていただくなかで、生徒との関わりを大事にしながら、毎回目標をもって充実した活動になるようにがんばります。



「当たり前」なんてない

人間科学科3年 嶋由加里

私は一昨年の11月から、神奈川中学校の個別支援級(特別支援級)で、ATとして活動している。主に授業の補助を行っているが、個別級の授業は、交流級の授業とはいくつか異なるところがある。例えば、数学という名の教科であっても、内容は数を数えることやお金の計算などである。また、作業という時間があり、ここではお裁縫や農作業などを行う。個別級では、生活するうえで役に立つことを学ぶ授業が多いのが特徴だ。

個別級のクラスに、M君という生徒がいる。彼は、教室に入っただけで授業を受けるのが苦手で、すぐに立ち歩いてしまう。教室にいたことが緊張するらしく、朝はたいてい隣の教室にいて、ドアから覗いてみんなの様子をうかがっている。また、注意されると暴言を吐いてしまうことが多々あった。M君のことは、昨年入学してきた時から知っているが、この1年どう関わったらよいのかとても悩んだ。昨年の前期は、同じ曜日に活動している先輩がいたので、主に先輩がM君の担当になっており、私が関わることはあまりなかった。しかし、後期になり先輩が別の曜日に移ったので、私はM君と関わる機会が増えていった。はじめは話しかけてもにこにこするだけで反応がなく、全く会話が成り立たない状態が続いた。しかし、他の生徒と同じように、M君とも親しく話せるようになりたいと思い、反応がなくても毎週必ず話しかける努力を続けた。すると、私のいないところで先生に私の話をしたりと、徐々に私の存在を気にしてくれるようになった。さらに、私がボランティアへ行く前日には、「明日は嶋先生は来ますか？」と気にしてくれるようになり、当日の朝は門のところで私が来るのを待ってくれるようになった。先生方や他のボランティアの学生と同じように、暴言を吐かれるようにもなってしまったが、会話が続くようになり、とても嬉しかったことを覚えている。週に一度しか活動できないこともあり、ここまで何カ月もかかってしまった。しかし、どんなに時間がかかっても、諦めずに話しかけ続けてよかったと思う。改めて、教師には根気が必要だと感じた。

個別級で活動していると、できていることを当たり前とばかりはいけなく、常に感じさせられる。一人一人得意なことや不得意なことがある。ある生徒ができることを、他の生徒も同じようにできるとは限らないのだ。授業を受けて、その日の課題をこなすことが当たり前だと思いがちだが、席に着くことが難しい生徒もいる。また、生徒が与えられた課題を達成すると、さらに次の段階へ進んでほしいという思いが起こり、次の段階へと急かしてしまうことがある。しかし、生徒一人一人の

少しの成長を喜び、これからも関わっていききたいと思う。

「関わり」の大切さ

人間科学科2年 堀内友樺

私は今年から、神奈川中学校で個別支援級の学校ボランティアとして活動しています。まだ実際に学校に行った回数も少なく、「自分が何をすればいいのか」、「生徒たちとどう接すればいいのか」など手探りの部分もあり、不安も多いです。だからこそ、学校ボランティアの活動をしていく上で「関わりを大切にする」という大きな目標を決めました。

3月は金曜日にボランティアとして活動をしていました。はじめて学校に行った日、とても緊張していた私に、生徒たちの方から話掛けてくれました。それが嬉しくて、緊張がほぐれたのを覚えています。通常の授業だけではなく、課外学習にも付き添わせてもらいました。学校内ではなく外へ出るため、落ち着きがなくなってしまう子どもも少なくはなく、目的地へ向かう道中でも列から外れてしまったりすることも多かった。この活動を通して、個別支援級でのボランティアの役割を実感できたように思います。「全体を見つつ、個人個人にも気を配る」、それがとても難しいのです。初めてのことが多く、どうしても個人に目を向けてしまいがちでした。生徒たちに何かを教えるときにも、誰がどこまでできているのか、どこが理解できていないのか把握することがなかなかできませんでした。しかし、ボランティアの回数を重ねていくごとに、少しずつではありますが、生徒一人一人に気を配れるようになってきたように感じます。また、授業の際も、手が止まってしまっている子に積極的に声をかけて、何がわからないのかなどを把握し、どうしたら理解してもらえるかを考えて工夫するという意識を以前よりも持てるようになりました。しかし、まだ至らないところも多く、行くたびに新たな課題が見つかります。先生方にも指導をしていただきながら、よりよいボランティア活動をしていきたいです。

個別支援級の子どもたちは一人一人が様々な個性を持っており、毎日が発見の連続です。話す度、生徒の違う一面を見つけることが今のボランティアの楽しみとなっています。最近では以前は警戒してなかなか話せなかった生徒も話してくれるようになり、より一人一人と関われるようになりました。「また来週」という生徒たちの言葉が、私をより意欲的にしてくれました。

今後も生徒との関わりを大切にして、ボランティア活動を続けていきたいです。

学校ボランティアで学んだこと

英語英文学科3年 中谷智美

私は、毎週土曜日に横浜市立戸塚中学校の土曜塾で学校ボランティアをしています。学校ボランティアを始めてから約一年経ちますが、まだまだ自分の力不足を感じることや、新しく考えたり、得ることが多くあります。今期からは土曜塾を隔週で行うことになったため、一回一回が充実した内容になるように、工夫して取り組むことを目標にして活動をしています。ここでは、私が活動を通して考えたことと取り組むうえで意識していることを述べたいと思います。

まず一つ目は、自信を持って正しいことを生徒に教えられるように、自分自身の学習をしっかりとすることです。生徒から自分が考えていなかったような質問をされたときに、自分でも不確かなことがあり、上手に説明できないときがあります。私は事前に次回何をするかを生徒と決めるようにして、自分も次回何をするのかが分かっているのも、前もって次にするところの内容を確認し、生徒にしっかりと正しいことを分かり易く教えられようになりたいと思います。生徒が「なるほど！」と理解し嬉しそうにしているのを見ると私も嬉しく思います。そのように生徒とわかる喜びを共有できるように、事前から準備をしっかりと学校ボランティアに臨みたいと思います。また、土曜塾は生徒が実際に疑問に思っていることを知り、また、自分にどの知識が不足しているのかを確認することができるよい機会だということに意識をして取り組むようにしたいです。

二つ目は生徒とコミュニケーションをとりながら活動することです。私は、一コマが一時間ということもあり、生徒が学習することを中心に考えています。そのため、生徒とコミュニケーションをとる機会が少なくなってしまう。生徒が学習をすることが一番なのですが、やはり学習を楽しんでもらいたいと思うので、教えるなかで少しずつコミュニケーションをとれるように意識したいと考えています。私は、今二人の生徒を一度に見ているので、それぞれがどのくらいまで理解しているのかを把握するためにも、コミュニケーションをとりながら楽しく活動をしていきたいです。学校ボランティアは生徒とコミュニケーションをとるよい機会だと思うので、そこから生徒との接し方を学び、また限られた時間の中でも信頼関係を築いていきたいと思っています。

これからも、自分に不足していることは何か、どのようにしたらよりよくなるのかを考えながら学校ボランティアをしていきたいと思っています。そして、活動内容を充実させて生徒に勉強することは楽しいと思ってもらえるようにしたいです。

土曜塾で感じたこと

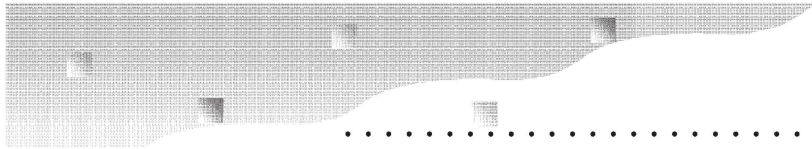
英語英文学科3年 馬場成美

私は、現在横浜市戸塚中学校の土曜塾でボランティアをさせていただいています。去年まで毎週行われていた土曜塾は、今年から隔週で行われることになりました。担当する生徒はボランティア一人に対して一人または二人です。少人数で行うことによって、質問がしやすく細かいところまで見ることができるので良いと感じました。私は二年生の英語と一年生の英語を担当することになりました。

私は去年の土曜塾では数学を担当していました。今年からは英語を担当することになりどのように教えていいのか不安がありました。したがって、一回目の授業でどのように進めていきたいのか生徒に確認しました。二年生の生徒はたくさん問題を解きたいということだったので、問題を解いてわからないところは質問するというやり方にしました。一年生の生徒は英語を習ったばかりなのでノートづくりの手伝いをし、文法の復習をすることにしました。一人ひとり進行速度ややりたいことが違うので、それぞれの生徒に合わせて授業を行い、効率よく時間を使いたいと思いました。

初めて英語を教えていて思ったことは、英語の文法を教える理解させるのは難しいということです。教える側の私自身はある程度わかっているのに、生徒がどこでつまづいているのか、何がわからないのかなど理解するのが大変だと思いました。しかし生徒にとっては初めて習うことでわからないのは当然です。自分が生徒の時何がわからなかったのかなど思い出しながら、生徒の立場に立って教えていくことが必要だと感じました。また、学年が上がっていくごとに学習する内容も難しくなっていくので、私自身も文法について復習が必要だと感じました。私もあいまいに覚えている文法があり、説明してと言われるとあいまいな説明になってしまい、生徒が理解できないということがありました。勉強を教えるうえで一番重要なのはうそを教えないということです。一度間違ったことを教えてしまい、間違ったまま生徒が覚えてしまうと、その間違いを訂正するのは非常に大変なことです。正しいことを教えられるように自分自身も勉強をしなければならぬと思いました。

この土曜塾では実際に生徒に教えることができ、非常に良い経験になっています。正しいことを教えなければならぬという責任もありますが、自分の成長にもなっていると思うので、これからも真剣に参加していきたいと思っています。教員を目指し勉強していく際に、この経験が役に立つといいなと思っています。



学校ボランティア日誌

現代ビジネス学科4年 守山涼

私がボランティアを始めてから、早いもので二年が経ちました。教員になる為、日々勉強を始めていくうちに徐々にではありますが、理想の「教師像」が少しずつ見えてきたと思います。

それは英語の時間での出来事でした。「先生、塾で長文読解をしているのだけど、いまいち話の内容がつかめない」とのことでした。そして私が「では、どうやって解いてるの」と質問をすると「文章を全部読んでから、問題に取り組んでいる」との事でした。その言葉を聞いたとき、「昔私が英語の長文をやる時と同じやり方だ」と感じ、当時塾の先生に解くコツを教えてもらったことを思い出しました。

- ①問題文を先に読むこと
- ②出典をみること(問題を解く上での鍵となる)
- ③パラグラフ毎に読むこと(一気に読まない)

この三つを先生から教わりました。その通りに生徒に教えたところ、最初はこれらの意味が分からなかったようで少し戸惑っていましたが、徐々に慣れていきミスがなくなり、時間の短縮にもなったと笑顔で「先生、有難う」と言ってくれました。人生でこのような事があったのは、恐らく初めてでした。「先生」と生徒から言われる、微力ではありますが、責任の重みを感じました。

私は、専門が社会科なのですが、やはり文章をしっかりと読むのは、社会や英語に限ることではありません。私が英語を教える際、大切だと思うことが三つあります。

- ①速読
- ②S+Vの関係
- ③作者のイタイコトを大まかでいいから理解する事

特に③は、国語でも大事ですが、英語に関してもより一層大事だと思います。

これからの目標としては、今までの授業の仕方(一方的な授業)を反省し、生徒参加型(生徒と会話)で授業をしたいと思っています。



学校ボランティアを再開して

科目等履修生 埜和徳

昨年に引き続き、私は戸塚高校定時制で、「学び直し」のアシスタントティーチャーとして、ボランティア活動をしている。

今年は、1年生と2年生を担当することになった。1年生の「学び直し」は、数学は掛け算の筆算など、小学校の範囲の復習、国語は漢字の書き取り、英語は中学生の復習、といった内容である。2年生は、それぞれ中学校の範囲の、より進んだ復習である。具体的には、数学は中学校の範囲を重点的に問題を解く、国語は中学校の難しい漢字の読み、英語は、単語を並び替えて文をつくるなど、である。

昨年に引き続き、心がけていることがある。まず、生徒の名前と顔を一致させ、ひとりひとりの特性に対応できるようにするというのである。同じ説明をしても、理解できる生徒とできない生徒がいるからである。ひとりひとりの特性を把握して、その生徒にマッチした説明をすることで、よりよく生徒が理解できると思っている。具体的に言うと、数学では、九九が満足にできない生徒から、中学校の範囲まで完璧にできる生徒まで幅広いので、同じ説明をするわけにはいかない、ということである。

もうひとつ心がけているのは、すぐに答えを教えるのではなく、少しずつヒントを出しながら正解へと近づいてもらうことである。たとえば英語で、「When do you go to school?」という文の単語がバラバラになっていて、単語を並び替える問題があるとしたら、「疑問詞がまず最初にくるよね?」とか「疑問文だからdo youという語順になるよね?」などのヒントを出しながら、正解に近づいてもらおうというやり方である。

また、今年は私が戸塚高校で教育実習をする年である。事前にボランティア活動ができるというアドバンテージを大切にして、ぜひ教育実習で、教師として必要な能力をうまく身につけたい。

今年度のボランティアを始めて

自治行政学科2年 栗田佳苗

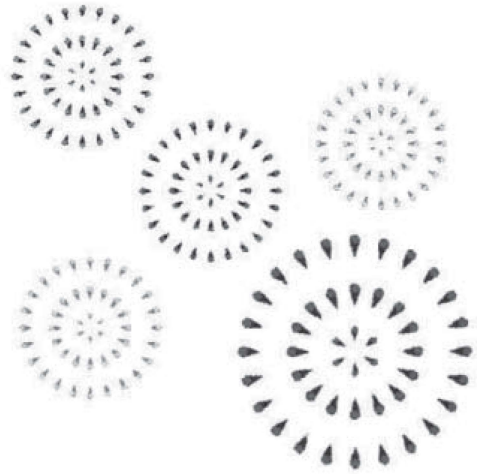
私は昨年(2013)の11月から活動を始めました。私は戸塚高校定時制で活動をさせていただいており、ここでの活動は他大学の学生さんとも交流をもてることがとてもいい経験になっています。

昨年度は、1年生の「学び直し」という授業をお手伝いさせていただきました。「学び直し」という授業は国語・数学・英語の中学校で習った内容などの基礎を、ひとりひとりのペースでプリントを進めていく授業です。私の活動はプリントができた子に対して丸を付けたり、わからないところを解くためのお手伝いをしています。今年度は1年生の「学び直し」の授業に加え、三年生の英語の授業もお手伝いさせていただくことになりました。

他のボランティアの学生が英米文学部の方々なので、私はついていけないか不安でした。授業は少人数制で、先日公開されたディズニー映画の英語版の歌を全員で歌うことから始まり、単語を覚え、その単語を使い和訳をしました。生徒がペアを組んで単語を覚える時に生徒が奇数だったので、近くにいた私が一緒に組んで練習をしました。その際、私自身読めない単語があり、他の生徒に聞いたことから、「先生って頭いいんじゃないの?」「え、もしかしてバカ?」などというお言葉をいただきましたが、私が戸塚高校定時制の卒業生であることを話したことから、生徒の皆さんと打ち解けることができました。

活動を通して感じたことは、わからないことが無いようにしておかなければいけない、と思うと同時にわからないことがあってもいいのではないかとということです。教員になるにあたって知識を多く求められますし、もちろん多くの知識を持っているべきだと思います。しかし、今回のように、わからないことから一緒に学び解決し、距離を縮めることがあってもいいのではないかと感じたからです。

まだ活動は始まったばかりなので、この一年を通し様々な知識をつけるとともに、生徒たちとより多く会話をしたりコミュニケーションを深め、他の先生方の動きを見て、自分自身の力に繋げていけるような活動をしていきたいです。また、他大学の学生さんとも協力し合い、お互いを高め合う活動をできたらと思っています。





発行日: 2014年7月23日
発行所: 神大ユース・サポート・プロジェクト(JYSP)
TEL: 045-481-5661(内線4352)
FAX: 045-413-4154
E-mail: jysp-jimukyoku@kanagawa-u.ac.jp
URL: http://www.kanagawa-u.ac.jp/teacher_training_course/jysp/